何才からでも

三年　若狭　早

地球はものすごく大きいもの。ハオのぼくはまだ小さいもの。今まで当たり前だと思っていたことが、『地球をまもるってどんなこと？』を読んで一気にかわりました。自分にできることを考えて行動すれば、地球をかえられるかもしれないのです。とくに「食べること」は一日に三回、おやつを入れると四回も考えるタイミングがあります。いつも何を食べているのか、目の前にある食べ物はどこから来たのか。まずはこれらを考えることから始めることにしました。

ぼくは毎日お魚を食べています。中でもよく食べるのは、サケとマダイです。スーパーマーケットに行き、この二しゅるいのお魚をじっくり見てみました。サケは北海道から来ていて、一切れ三百円でした。マダイはぼくの住むえひめ県でとれたもので、なんと一ぴき丸ごとで三百円でした。ぼくの顔の大きさ



くらいのマダイが三百円。近くでとれたものは運ぶ時にかかるお金が少ないので、遠くでとれたものよりもお安くなります。その上かんきょうにもやさしいと知り、なるべく近くでとれたお魚を食べようと思いました。ぼくはこの本で「フード・マイレージ」をはじめて知ったので、言葉の意味をもっとたくさんの人に広めたくなりました。

食べ物について調べていくと、食品ロスが問題になっていることも分かりました。そこでぼくが夏休みにさんかしたのは、けっこん式の時に出てくるのは、おもてなしのりょうり。式場の「食育体けん」です。けっこん式の時「一番おいしいところだけつかって、後は食品ロスになっちゃうのかな」。

そんな風に思っているとここやさいの皮も、オマールえびのカラも「だし」を取るためにつかっていました。ぼくはこの体けんを通して、食べ物を大切においしくいただくコツを学びました。地元の食べ物をつかうことも食



育のテーマだったので、メインディッシュはやっぱりマダイでした。

食べ物を大切にすることは、何才からでもできると思います。ぼくは食べ物をなるべくのこさず食べて、お家の食品ロスをへらすようになりました。地球をまもりたいと思ったら、小さなことから始めていいのです。十才の作者はすてきなことを教えてくれました。この本のさいごの「地球人」という言葉をわすれず、できることを考えつづけたいです。

